

## シリーズ石見銀山③②「発掘調査が終わった後は」

今年度の石見銀山遺跡発掘調査も無事終了し、現在は調査報告書の刊行準備を進めています。今回は発掘調査が終わってから報告書刊行までの整理作業について少しお話しします。

遺跡の調査といっても単に現地を掘り下げて生活の痕跡を探し、出土した遺物の記録を取るだけではありません。

現地での作業が終わると、調査によって見つかったもの、分かったことを整理してまとめ、報告書として公表する必要があります。調査成果を公表することの意義は、調査を記録に残すことに留まらず、調査成果を多くの人に知ってもらい、調査研究の基礎資料として多くの研究者や関心のある方々に活用してもらうことです。

まず、整理作業として主に次のようなことを行ないます。①出土した遺物を洗って土や泥を落としてから、1点ずつ管理のために割り振った数字やどこから出土したものであるのかを書き込む作業、②バラバラの破片で出土した遺物を接着剤でつなげ、必要に応じて石膏などで欠損部位を補いながらもとの形に近づける作業、③出土した遺物についてどんな形をしていて、どこにどんな文様があるのか、どのようにして作っているのかを図で表す作業。これを①→②→③の順に進めていきます。瓦や土器などで複雑な文様があり、図化が難しいものについては石碑などと同じように拓本を取ることもあります。

以上のような作業を経て整理した遺物について、発掘調査現場で記録した生活の痕跡などをまとめて文章を作成し、書籍としての体裁を整えて出版して報告書が完成します。

報告書は印刷部数が少ないため、一般向けに配布はしていません。また営利目的で出版しているわけではないので市販もしていません。見たことのある人は少ないかもしれませんが、全国の大学や研究機関、博物館、大田市内の図書館等には備えていますので、関心があればぜひ探して読んでください。 《お問い合わせ先》石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183 (担当：山手)



▲遺物を図化しているところ

## 大田高校写真部が「Nikon TopEye 全国高校生写真サミット2016」に初出場!

2月5日～7日に横浜で開催された『Nikon TopEye 全国高校生写真サミット2016』に大田高校写真部が代表15校に選出され、初出場しました。

初日に提示された撮影テーマ「走れ!横浜」に沿って、各校3人1組で作品をつくるチーム戦。3人で協力しながら作品を作り上げ、結果、4位(エプソン賞)という好成績を収めることが出来ました。

応援ありがとうございました。

■出場生徒：柿田知保実、松本真実、坂野すみれ



作品名「温故知新」

初めて行った横浜は島根(大田)よりずいぶん先を「走っている」都会ですが、よく見ると古いものや新しいもの、日本古来のものや異国のものが混じり合って共存している街でもあります。そんな横浜の姿を作品にしました。

### 〈Nikon TopEye 全国高校生写真サミットとは?〉

カメラメーカーのニコンが高校生写真部を対象としたコンテストを年に4回開催しています。その4回のコンテストでの入賞状況において上位15校が「全国高校生写真サミット」の出場権を得ます。大田高校は4作品が入賞し、入賞ポイント「74点」で9位となり代表校に選ばれました。